

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、下記検査項目におきまして、検査内容の変更をご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。

謹白

記

■ 実施日 2022年5月6日（金）ご依頼分より

■ 変更項目

検査項目	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）
	アデノウイルスDNA 定性
	単純ヘルペスウイルスDNA 定性
	単純ヘルペスウイルス DNA 定量
	水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定性
	サイトメガロウイルスDNA 定性
	ヒトヘルペスウイルス6型DNA 定性
	ヒトヘルペスウイルス7型DNA 定性
	HIV-1 抗体
	HIV-1RNA 定量
	HIV-2 抗体
	薬剤によるリンパ球 刺激試験（DLST）
	水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定量



●変更一覧表

項目コード	検査項目	変更内容		新	現	備考
68314	HIV-1抗体	報告書版下	住所	エスアールエル セントラルラポラトリー 東京都あきる野市洲上 50	八王子ラボ 東京都八王子市小宮町 51 番地	ガイドラインに沿った内容への変更
25250	HIV-2抗体		HIV 検査手順/ HIV-1 確認検査の解釈	「診療における HIV-1/2 感染症の診断ガイドライン 2020 版」(日本エイズ学会・日本臨床検査医学会 標準推奨法) 参照	「診療における HIV-1/2 感染症の診断ガイドライン 2008 版」(日本エイズ学会・日本臨床検査医学会 標準推奨法) 参照	
65578	HIV-1RNA定量					
05175	薬剤によるリンパ球 刺激試験 (DLST)	案内書備考欄	<p>受託可能日は月～金曜日です。1 薬剤増ごとに血液 5.0mL 必要となります。血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。(原則として皮内反応注射薬は検査できません。)ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は 全ての採血管に PNK(R) の容器を使用してください。</p>	<p>受託可能日は月～金曜日です。1 薬剤増ごとに血液 5.0mL 必要となります。血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。(原則として皮内反応注射薬は検査できません。)ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は PNK(R) の容器を使用してください。</p>	検体取り扱いについて、より分かりやすい表現への変更	
		検体取り扱い方法	<p>血液： 1 薬剤につき指定の容器(2 本)に採血し、よく混和させ、必ず室温保存してください。 1. 1 薬剤増ごとに血液 5.0mL 必要となります。 2. 1 薬剤で 500 万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。 3. 目安として白血球数が 3000mm^3 以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、担当営業員までお問い合わせください。 4. 2 項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。 5. 血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。錠剤(1 錠)、カプセル(1 カプセル)、粉末(1 回投与量程度 1 包)、リキッドタイプの飲み薬(0.5mL 程度)、注射薬(1 バイアル【アンプル】) 皮内反应用テストアンプルは微量のため検査できません。その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、担当営業員までご連絡ください。 6. ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は 全て 専用容器 PNK(R) に採血しご提出ください。検体は採取後、当日中にご提出ください。</p>	<p>血液： 1 薬剤につき指定の容器(2 本)に採血し、よく混和させ、必ず室温保存してください。 1. 1 薬剤増ごとに血液 5.0mL 必要となります。 2. 1 薬剤で 500 万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。 3. 目安として白血球数が 3000mm^3 以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、担当営業員までお問い合わせください。 4. 2 項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。 5. 血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。錠剤(1 錠)、カプセル(1 カプセル)、粉末(1 回投与量程度 1 包)、リキッドタイプの飲み薬(0.5mL 程度)、注射薬(1 バイアル【アンプル】) 皮内反应用テストアンプルは微量のため検査できません。その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、担当営業員までご連絡ください。 6. ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は専用容器 PNK(R) に採血しご提出ください。検体は採取後、当日中にご提出ください。</p>		

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	備考
5055 3	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	案内書備考欄 検体取り扱い方法	ACTH は EDTA 濃度増加により測定値が低下するため、容器の指定容量を採取してください。 採血後、速やかに血漿分離してください。 血漿：早朝安静時に左図の容器に採血し、 速やかに よく混和させ、低温（4℃）で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。	ACTH は EDTA 濃度増加により測定値が低下するため、容器の指定容量を採取してください。 血漿：早朝安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、低温（4℃）で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。	添付文書に沿った、検体処理方法へ文言変更
2780 3	単純ヘルペスウイルスDNA定量	材料追加 (髄液)	基準値	1.0×10 ² 未満	臨床的意義が高いため材料追加 ※水痘・带状疱疹ウイルスDNA定量は研究検査項目のため、報告書に基準値の記載はございません。
	単位		コピー/mL		
	報告範囲		1.0×10 ² >、1.0×10 ² ~5.0×10 ⁷ 、5.0×10 ⁷ <		
	報告桁数		有効2、整数1、小数1		
2754 6	水痘・带状疱疹ウイルスDNA定量	保存	凍結		
		検体量	0.7mL		
		容器	ARR (IB r) 滅菌ポリスピッツ		
		所要日数	2~4日		
5426 9	単純ヘルペスウイルスDNA定性	患部ぬぐい液の容器変更	容器記号 ARR 旧容器記号 r 	容器記号 PSD 旧容器記号 h 	使用実績を鑑み、容器変更
5427 6	サイトメガロウイルスDNA定性		滅菌ポリスピッツ	SDS EDTA-2Na 入り 容 器 容 量 (10mL)	
6819 1	水痘・带状疱疹ウイルスDNA定性		貯蔵方法 室温	貯蔵方法 室温	
2333 3	ヒトヘルペスウイルス7型 DNA 定性	保存	患部ぬぐい液：凍結	患部ぬぐい液：室温	
6316 1	ヒトヘルペスウイルス6型 DNA 定性	備考欄	血液： 凍結保存は避けてください。 患部ぬぐい液： 患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ (ARR) に入れ、そのまま凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。	血液： 凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。	

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	備考
		検体取り扱い方法	<p>血液： 左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。</p>	<p>血液： 左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。</p> <p>患部ぬぐい液： 滅菌綿棒にて患部をぬぐい、指定の容器に入れ、そのまま室温保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。</p>	
68177	アデノウイルス DNA 定性	患部ぬぐい液の容器変更	<p>容器記号 ARR 旧容器記号 r</p>  <p>滅菌ポリスピッツ</p> <p>貯蔵方法 室温</p>	<p>容器記号 PSD 旧容器記号 h</p>  <p>SDS EDTA-2Na 入り 容 器 容 量 (10mL)</p> <p>貯蔵方法 室温</p>	使用実績を鑑み、 容器変更
		保存	患部ぬぐい液：凍結	患部ぬぐい液：室温	
		備考欄	<p>測定対象は1、2、3、4、5、6、7、8、11、19、37型です。ただし型判定は実施できません。結膜ぬぐい液：患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ（ARR）に入れ、そのまま凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。</p>	<p>測定対象は1、2、3、4、5、6、7、8、11、19、37型です。ただし型判定は実施できません。他項目との重複依頼は避けてください。</p>	
		検体取り扱い方法	<p>糞便： 糞便 500mg を指定の容器に入れ、必ず凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採</p>	<p>結膜ぬぐい液： 滅菌綿棒にて患部をぬぐい、指定の容器に入れ、そのまま室温保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなり</p>	

項目 コード	検査項目	変更内容	新	現	備考
			取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。	ますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 糞便： 糞便 500mg を指定の容器に入れ、必ず凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。	

●HIV-1 抗体/HIV-2 抗体/HIV-1RNA 定量

セントラルラボトリーへの移管にあわせ、親展報告書の版下の変更をおこないます。
また、記載情報を最新のガイドライン（診療における HIV-1/2 感染症の診断ガイドライン 2020 版（日本エイズ学会・日本臨床検査医学会 標準推奨法））に準じ変更いたします。

対象項目

項目コード	検査項目
6831 4	HIV-1 抗体
2525 0	HIV-2抗体
6557 8	HIV-1RNA定量

<新報告書見本>

SIRIL 検査報告書在中

当社ではご提出医親展とさせていただきますのでご了承下さい。

ご提出医およびご依頼情報は裏面をご参照下さい。

SIRIL 株式会社 エスアールエル
 エスアールエル セントラルラボトリー 東京都あきる野市岡上50
 042-646-5911

この面をめくると「検査結果」が記載されております

写し、読んでいる場合は、十分に乾かしてからゆすりていれいれはがして下さい。

① 全体をミシン線に沿って裏側に折りかえし、②からゆすりはがしてご覧下さい。

HIV検査手順

HIV-1/2スクリーニング検査(抗原抗体同時スクリーニング)

陽性・判定保留 陰性 ①

HIV確認検査(HIV抗体確認検査および核酸増幅検査法)

抗体確認検査法	HIV-1 核酸増幅検査法	
HIV-1 HIV-2	陽性	陽性あるいは検出感度未満
陽性 ②	HIV-1 2 感染	HIV-1 2 HIV-2 両感染
判定保留	HIV-1 感染	HIV-1 感染(②) HIV-2 感染
陰性	HIV-1 感染	HIV-1 感染(②) HIV-2 感染
陽性 ③	HIV-2 感染	急性HIV-2 HIV-1 両感染
判定保留	HIV-1 2 両感染	急性HIV-1 感染
陰性	HIV-1 2 両感染	HIV-2 感染
陽性 ④	HIV-2 感染	急性HIV-1 感染
判定保留	HIV-2 感染	HIV-1 感染(②) HIV-2 感染
陰性	HIV-2 感染	HIV-1 感染(②)

①感染リスクが低い場合は非感染と判定されますが、感染リスクがある場合は不明の場合は数週間後に再度スクリーニング検査を実施してください。
 ②HIV-2 核酸増幅検査法は身体採取されていないため、専門機関に相談してください。
 ③HIV-1 感染のままではウイルス量が増加してきます。
 ④感染リスクがある場合は不明の場合は、数週間後に再検査を実施してください。

「検査結果」はおもて面をご覧下さい

HIV-1 核酸増幅検査の解釈

●HIV-1 RNA定量 (リアルタイムPCR法)
 HIV-1 感染の確認検査、病態の進展、治療開始時期の決定および治療の経過観察等に用います。

<測定結果>
 【検出せず】 HIV-1 RNAを検出できませんでした。ただし、HIVの存在を否定するものではありません。臨床症状や他の検査結果などと併せて総合的に判断してください。

【測定範囲】 2.0×10³未満、2.0×10³~1.0×10⁷コピー/mL

<現報告書見本>

SIRIL 検査報告書在中

当社ではご提出医親展とさせていただきますのでご了承下さい。

ご提出医およびご依頼情報は裏面をご参照下さい。

SIRIL 株式会社 エスアールエル
 〒東京都立川市堀籠 2-3-14 1F
 〒東京都八王子市小宮町引草 4-1-1
 042-646-5911

この面をめくると「検査結果」が記載されております

写し、読んでいる場合は、十分に乾かしてからゆすりていれいれはがして下さい。

① 全体をミシン線に沿って裏側に折りかえし、②からゆすりはがしてご覧下さい。

HIV検査手順

スクリーニング検査(ELISA)

陽性 判定保留 再検査 数週間後に再検査 陰性 ①

HIV-1 確認検査(*)

WB法	核酸増幅法	判定
陽性	陽性あるいは検出感度未満	感染
陽性	検出せず	感染
判定保留	陽性あるいは検出感度未満	感染の疑い②
判定保留	検出せず	陰性③
陰性	陽性あるいは検出感度未満	感染の疑い②
陰性	検出せず	陰性③

①感染のリスクが高く感染初期の可能性が考えられる場合は、数週間後に採血し、スクリーニング検査を実施してください。
 ②感染初期の可能性が高いため、数週間後に採血し、WB法を再検査してください。
 ③感染の疑いもあるので、数週間後に採血し、再検査を実施してください。
 (*) HIV-2 型の感染が疑われる場合は、HIV-2 抗体(WB法)を実施してください。

「検査結果」はおもて面をご覧下さい

HIV-1 確認検査の解釈

●WB(ウェスタンブロット)法の判定基準 (WHO判定基準)
 【陽性】 envバンドが2本以上検出された場合
 【陰性】 HIV抗原に対するバンドが検出されない場合
 【判定保留】 HIV抗原に対するバンドは検出されるが、陽性の判定基準に一致しない場合 (HIV感染の疑いがある場合には、数週間後に採血し、再検査を実施してください。)

●核酸増幅法の検査
 HIV-1感染者の確定診断、病態の進展、治療開始時期の決定及び治療の経過観察等に用います。
 【RNA定量(リアルタイムPCR)】
 測定範囲: 4.0×10³~1.0×10⁷コピー/mL

※検査結果が「検出せず」の場合でもHIVの存在を否定するものではありません。測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果などと併せて総合的に判断してください。